

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】令和4年5月13日(2022.5.13)

【公開番号】特開2020-199083(P2020-199083A)
【公開日】令和2年12月17日(2020.12.17)
【年通号数】公開・登録公報2020-051
【出願番号】特願2019-108057(P2019-108057)
【国際特許分類】

A 6 1 G 17/007(2006.01)

B 6 5 D 6/18(2006.01)

A 6 1 G 17/013(2006.01)

【FI】

A 6 1 G 17/007

B 6 5 D 6/18 A

A 6 1 G 17/013

【手続補正書】

【提出日】令和4年4月27日(2022.4.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

本実施形態の棺1aでは、第1板14aの左右の両端部には、第2板15及び第3板16が配されており、第1板14aの下端部には、底板12と第1板14aとを固定するための固定部として、固定板17aが配されている。底板12と固定板17aとは、例えば、図7に示したように、連通孔171を底板12と固定板17aとに設けて、ダボなどの固定具（図示略）を連通孔171に挿入することによって、固定することができる。また、第1板14aと固定板17aとは、例えば、接着剤、若しくは粘着剤などの接合剤、螺子、ダボとダボ穴などの連結具などによって固定したりすることができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

図1及び図4の第2板15の形状の比較と図1、図8及び図9の第2板15の形状の比較とからわかるように、第2板15は、第1板14aの一方の面又は他方の面に接近する方向に回動可能な状態で第1板14aに支持されている。同様に第3板16は、第1板14aの一方の面又は他方の面に接近する方向に回動可能な状態で第1板に支持されている。図5に示したように、棺1aを組み立てた状態においては、第2板15又は第3板16は、棺1aの長手方向に沿って延在する状態となっている。棺1aを折りたたむ際には、図8及び図9に示したように、第1板14aの他方の面に接近する方向に回動させることにより、折り畳むことができる。棺1aでは、第2板15又は第3板16が第1板14aの他方の面に接するまで、回動することができる。図9の例では、第2板15又は第3板16を第1板の他方の面に接するまで回動させる構成としたが、第2板15又は第3板16を第1板の一方の面に接するまで回動させる構成としてもよい。なお、図1の例では、第1板14aの一方の面は、第1板の表面に相当し、第1板の他方の面は、第1板14aの

裏面に相当する。表面は、図 1 に示したように、棺を展開した状態において、棺の上方を向く面のことをいう。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

本実施形態の棺 1 a を構成する段ボール 1 9 は、図 2 6 に示したように、第 1 ライナー 1 9 1 と、第 1 波状部 1 9 2 と、第 2 波状部 1 9 3 と、第 2 ライナー 1 9 4 と、第 1 波状部 1 9 2 と第 2 波状部 1 9 3 とを隔てる隔壁層 1 9 5 とを有する。本実施形態の棺 1 a では、段ボールを折り曲げて回動させやすくするために、第 2 ライナー 1 9 4 を残して、第 1 ライナー 1 9 1、第 1 波状部 1 9 2、隔壁層 1 9 5、及び第 2 波状部 1 9 3 が切除されている。これにより、第 2 ライナー 1 9 4 側に段ボールを折り曲げる際には、第 2 ライナーと第 2 ライナーとが接するまで折り曲げることが可能になる。棺を構成する段ボールは、単層でも複層でもよいが、溝を切り入れる側とは反対側のライナーを残すように溝を切ることが好ましい。なお、図 2 6 の例では、第 1 ライナー 1 9 1、第 2 ライナー 1 9 4、及び隔離層 1 9 5 は、板状の紙から構成される。第 1 波状部 1 9 2 及び第 2 波状部 1 9 3 は、紙を波状に繰り返し曲げた形状を有する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

切れ込み部 1 8 a は、図 2 6 に示したように、例えば、棺を構成する段ボールを断面が V 字状の溝が線状に構成されるようにして構成してもよい。また、切れ込み部 1 8 b は、図 2 7 に示すように I 字状の溝が線状に構成されるように構成してもよい。V 字状の溝の場合は、最大で 2 7 0 度程度の回動範囲が得られる。I 字状の溝では、最大で 1 8 0 度程度の回動範囲が得られる。第 1 板 1 4 a と第 2 板 1 5 との間、及び第 1 板 1 4 a と第 3 板 1 6 との間に V 字状の切れ込み部 1 8 a を配置することによって、第 2 板 1 5 及び第 3 板 1 6 が棺 1 a の長手方向に延在した状態で位置が定まりやすくなる。これによって、棺 1 a の組み立て作業を効率化することができるし、棺 1 a の剛性を高めることができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

本実施形態の棺では、側壁 1 1 には、側壁 1 1 を回動させるための切れ込み部 1 8 a が設けられている。妻部 1 3 には、上述の通り、外装材 2 0 が嵌められている。外装材 2 0 の突枠 2 0 1 によって、側壁 1 1 に切れ込み部 1 8 a を設けたことによる、棺の形状変化が抑えられるようになっている。また、妻部 1 3 には、第 1 板 1 5 及び第 2 板 1 6 が、一対の側壁 1 1 の内側に配置されている。これによっても側壁 1 1 に切れ込み部 1 8 a を設けたことによる、棺の形状変化が抑えられるようになっている。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 5 】

上記の第 1 実施形態から第 3 実施形態の棺では、第 1 板は妻部の開口部を塞ぐ方形状とした。第 1 板の形状はこれに限定されない。例えば、第 1 板は、円形などでもよいし、開口部の大きさよりも小さい形状であってもよい。同様に第 2 板、第 3 板、又は固定板の形状も上記の実施形態のものに限定されず、例えば、楕円形上の板などでもよい。

【 手 続 補 正 7 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 図 面

【 補 正 対 象 項 目 名 】 図 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

10

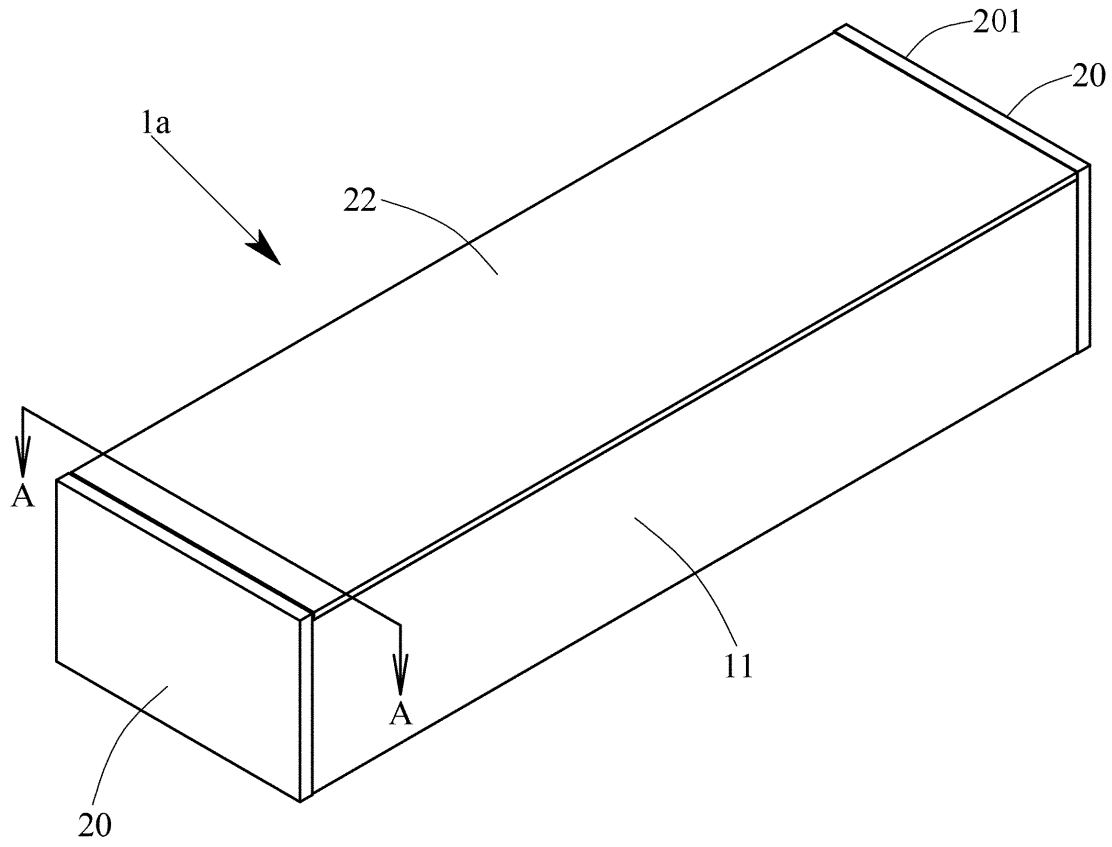
20

30

40

50

【図 6】



10

20

30

40

50